

令和元年度高知県食の安全・安心推進審議会 分科会報告

「GAP、HACCP について」

日時：令和元年 12 月 19 日（木）15:20～16:30

場所：高知会館 2 階 天平

参加者：委員 7 名（大久保委員（座長）、西岡委員、佐々木委員、中澤委員、久委員、能勢委員、田村委員）

幹事課：環境農業推進課、食品・衛生課

関係課：県民生活・男女共同参画課、地産地消・外商課、畜産振興課、漁業振興課、水産流通課、木材産業振興課、保健体育課、高知市生活食品課

話題提供

【環境農業推進課】 GAP の説明と高知県における取組について話題提供。

【食品・衛生課】 改正食品衛生法による HACCP の制度化について話題提供。

主な質疑応答及び意見交換

- ・農家が 6 次化した場合も HACCP 制度化の対象となるのか。
 - 食品衛生法では、農産物の採取業は除かれることになっているが、6 次産業化で総菜や菓子を作るなど、加工食品を製造している場合は対象となる可能性が高い。
- ・国から農協へは「出荷場は集荷の範囲と見なして HACCP の対象外だが、GAP の取組は必須」と言われている。
- ・JA 高知県れいほく園芸部が高知県版ガイドライン準拠 GAP を取得したとのことだが、困難だったところがあれば教えてほしい。
 - 当団体は以前から ISO の取組をしていたため、基盤ができていた。また、団体としての取組のため、全農家の確認ではなく、抽出農家の確認と事務局で集中管理ができていたかの確認が行われた。実際にできていたことがつながったと考えている。
- ・生産したピーマンなどに認証マークをつけて販売することができるのか。また、グローバル GAP を受けた企業はそんな表示をしているか。
 - 県版 GAP は認証ではなく、確認制度となっているため、マークをつけるような仕組みはない。PR はしていきたい。
 - グローバル GAP はマーク表示ができない。代わりに 16 桁の番号を表示することはできる。J-GAP はマーク表示が可能。国内では取引先からの要望で取得しているところが多い。
- ・高知県では、各地域のものを合わせて「高知県産〇〇」として販売している。そのため、一部の農家がグローバル GAP を取っていたとしても、それを出して売るとは

できない。

- ・農協としては、品目単位で全産地 GAP をやっているという風にしたいと考えている。
- ・初めて「GAP」のことを聞いた。「とさのさと」でも GAP に取り組んでいる商品を取り扱っているのか。
 - GAP の取組を行っているものに限ると商品が集まらないので、そこまで求めている。ただし、生産履歴等日誌のチェックは必要としている
- ・HACCP については、誰もが1日でレベルの高いことができるわけではない。食品衛生指導員として普及する立場から、施設に対しては、まずは始めてみて、進めているうちに困ったことが出てきたら保健所に相談を、というスタンスでやっている。
- ・巡回指導時にいろいろな店に行くが、最近は誰が見ても汚いというところは少なくなった。衛生管理に対する意識は昔に比べて良くなっている。
- ・GAP については、JA グループの全農家で取り組むようにプロジェクトを進めている。チェックシートが面倒だと言われることもあるため、これからの課題と考えている。